



**Research
Announcements**
#008

メタ倫理学視点とヌーソロジー
〈その1〉2つのメタ概念

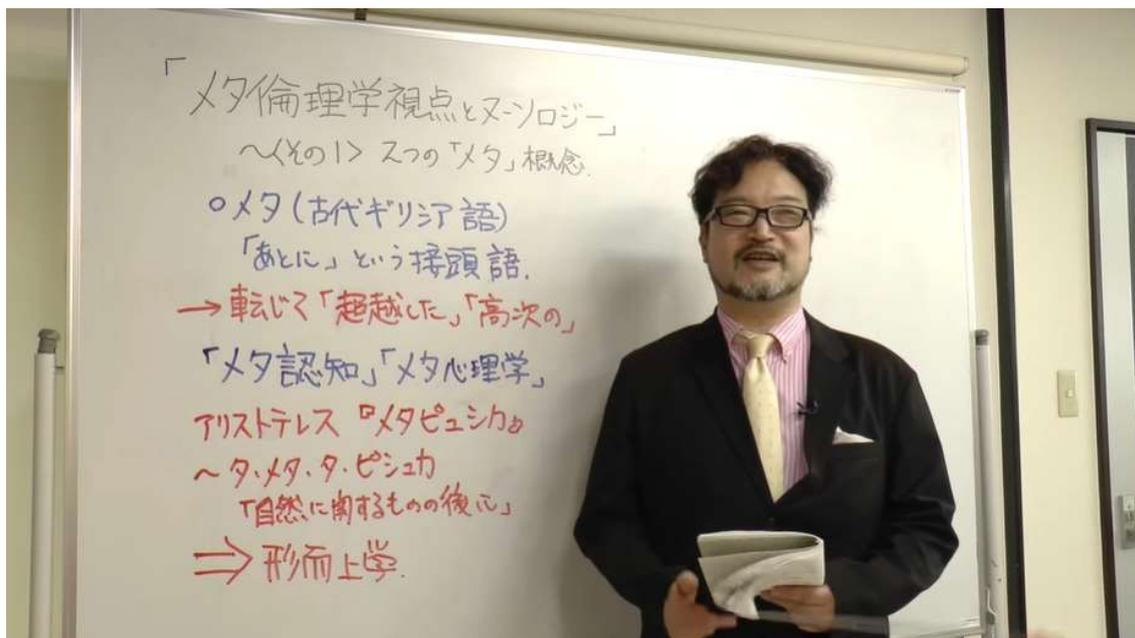
 武蔵野学院大学ヌーソロジー研究所

announcer **高橋 暢雄**

メタ倫理学視点とヌーソロジー
〈その1〉2つのメタ概念

高橋 暢雄

みなさん、こんにちは。武蔵野学院大学ヌーソロジー研究所の高橋です。
今回の研究発表につきましては短いものを2本という形でワンセットでご説明させて頂ければと思います。テーマは「メタ倫理学視点とヌーソロジー」というタイトルで、まず1本目と致しまして、2つのメタ概念について、ご説明していきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひします。



今メタという言葉は非常に一般的になっているように感じています。私なんかもニューソロジーに関わる YouTube でメタ認知についてご説明をしたり、いろいろなことをやらせて頂いておりますので、今メタと言うと、1 つ上の超越したより高次のというような意味に多くは使われます。で、これは、メタ心理学というものが超越イメージにおいて、直接的な作用ではなくて、その一個上のイメージで持つというような意味で、フロイト以来使われるようになったことによるものなのですが、語源は古代のギリシア語になっています。これは「あとに」という接頭語を意味していたわけなんですけど、ここがポイントになるわけなんですけども、それが転じて「超越した」「高次の」というような意味に変わってしまったものだと言われています。また変化を意味するような形にも転じておまして、「メタモルフォーゼ」これは「変化」とか「変態」とか、その生物の問題ですね。あと「メタボリズム」は「代謝」という意味ですね。そういうのも「変化する」という意味にも使われておりますが、今回はそもそもの語源である「メタ」古代ギリシア語によるおける「あとに」というのが一つ、そして、転じた「超越した」「高次の」という意味がもう一つありますので、その2つの視点からお話をしたいと思います。で、1本目につきましては、どちらかと言うと、この転じた今メジャーな意味合いのご説明をする中で、2本目におきまして、メタ倫理学等のお話をさせていただきたく流れてほしいと思っております。

そもそもですね。メタ認知、一個上の認知ですね。メタ心理学。先ほども申し上げましたが、例えば、メタ数学でメタ定義、これは分析哲学の領域ですね。こういうような使われ方もしているわけです。で、すべてはこれらは「超越した」「高次の」ということの意味合いに使われています。ところがしつこいようですが、メタという言葉自体は「あとに」という意味だったので、この異なってしまうわけなんですけど、その理由という部分を申し上げておきたいと思っております。これは古代ギリシアでの当然哲学者として有名なアリストテレスが『メタピュシカ』という本を書いています。で、これは「タ・メタ・タ・ピュシカ」という言葉に基づいておまして、その意味は「自然に関するものの後に」という意味だったわ

【武蔵野学院大学ヌーソロジー研究所】研究動画シリーズ#008(高橋)(13:36)
「メタ倫理学視点とヌーソロジー」〈その 1〉2 つのメタ概念 (2022/07/05 uploaded)

けです。ですからアリストテレスというのは、自然という表層現象に、それをいろいろ着目をする中で、その上で次の話として、たまたまより高次・超越したものを話したわけですね。ところが、どうしてもこれが「形而上学」というふうには、後に訳されていったことから、イメージ的に「超越した」「高次の」ということが、この「メタ」という言葉に意味づけられていったというようなことがございます。で、オクスフォード英辞典を見ますと、「何々を超えて」等を明らかに使うようになったのは、1900 年代以降です。例えば、数理論学等で使われたり、またアインシュタイン等物理学の中でも、相対性理論はどっちが先だったという論争した、ヒルベルトなんか「メタ数学」ということを 1920 年代に言い出しておりますし、クワイン、これは思想家ですね、クワインは 1930 年代に「メタ定理」と言いながら分析哲学の基本というようなものを話しているわけです。ですから、一つ上のというイメージが身につけているのが、その 1900 年代以降の認識だとすると、これはアリストテレスのメタピュシカから始まっている概念だということがお分かり頂けるんじゃないかと思います。短くなりますが、2 本目におきましては、メタ倫理学およびメタ哲学についてご説明をしていきたいと思っております。今回の動画は以上です。次の動画でまたよろしくお願いします。(5:12/13:36)

**Research
Announcements**
#008

メタ倫理学視点とヌーソロジー 〈その 2〉メタ倫理学視点の有用性

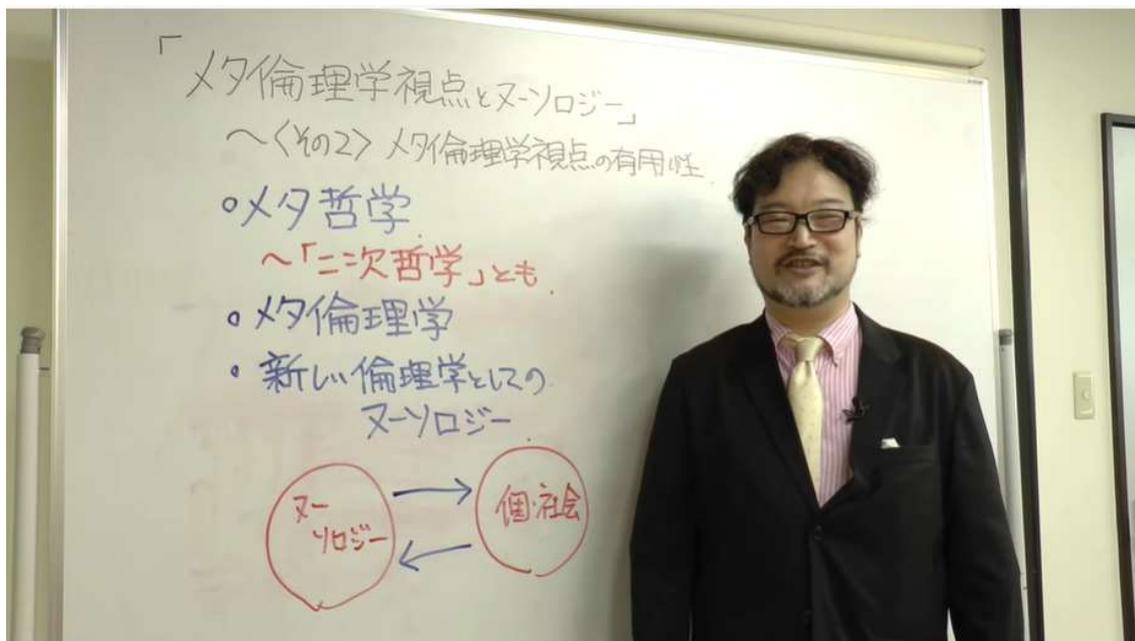
 武蔵野学院大学ヌーソロジー研究所

announcer 高橋 暢雄

メタ倫理学視点とヌーソロジー
〈その 2〉メタ倫理学視点の有用性

高橋 暢雄

こんにちは。武蔵野学院大学ニューソロジー研究所の高橋です。先ほどの第1本目に続きまして、続きと致しまして、今回は、「メタ倫理学視点とニューソロジー」の2本目「メタ倫理学視点の有用性」についてお話をしていきたいと思っております。



1 本目でお話しました通り、現在では「メタ」という意味が、どうしても「高次の」「超越した」というような意味合いに、いろいろなものから使われている面がございます。しかしながら、元々の古代ギリシア語の視点というものが「あとに」という意味の接頭語であったこと、この視点を1本目のレビューとして振り返っておきたいと思っております。それを踏まえまして、今回は、まずメタ哲学、メタ倫理学という、どちらかと言うと、古代ギリシア語の「あとに」に近い概念でやっているもののお話を差し上げおきまして、その上で、ニューソロジーとの関連を結論づけさせて頂きたいと思っております。

で、メタ哲学というような領域につきましては、「メタ哲学」と呼ばれるようになったり、「メタ倫理学」と呼ばれるようになったのはこれもまた1900年代に入ってからなのです。しかしながら、メタ哲学やメタ倫理学のようなアプローチというものは、非常に古くからたくさんのもが行われてきました。

まずメタ哲学なんですが、メタ哲学というものは、どちらかと言うと、哲学の周辺、哲学という対象に対する研究そのものがあつたとすると、その前も含めて、そうすると、より本質的なところは何かとか、もしくは、哲学ということ捉える視点、もしくは、学び方等々っていうのは、その前に来るはずな話ですよね。またそれに方法とかいろいろなものが周辺のようにくっついてくることを、多くの場合、「メタ哲学」と言います。つまり、哲学そのものから周辺的になることによって、いろいろなあり方を模索していく分野がメタ哲学だということになるわけです。ですので、過去、ヴィトゲンシュタインなんかは、普通に「二次哲学」と呼んでいたりするんですが、この二次哲学とも呼ばれているものが、現代で言うところのメタ哲学にもなるわけです。もちろん哲学というような範囲では先ほどのクワイン

の分析哲学のように、それとはまた違う視点を、二次的に付けているものもあります。いずれに致しましても、メタ哲学というのは哲学そのものではなく、その周縁的副産物として生まれていく研究を指すんだというようなことをご理解頂ければと思います。

そして今回、私が一番中心的にこのご説明として置かせて頂きたいのがメタ倫理学です。で、メタ倫理学というのは、倫理学というものがそもそも倫理的要因そのものを論じているだけでは、非常に理念的になってしまうわけですね。美であるとか善であるとか、そういうような理念的な概念っていうものに対して、個、もしくは、社会との関わりというものが、どうしても必要になってくる。ですから、それをどう受容をしているのか。個や社会がですね。もしくは、個や社会のこのような動態がどう倫理的な概念と接合したり、その顕著なものとして捉えられるのかというような分野を扱うものがメタ倫理学というような領域になっています。ですから、倫理と社会・個とのブリッジになると同時に、そのお互いを相互的に運動するような研究分野がメタ倫理学ということになります。で、この双方を考えながら、その双方をブリッジしていこうとするような、メタ倫理学の視点というものが、非常にヌーソロジー研究において、有用的であるのではないかとというのが、今回の私の研究の主眼となります。具体的には半田さんもよくおっしゃってますが、ヌーソロジーというものは、新しい倫理学の側面を、非常に強く持っています。具体的には、道徳と呼ばれるような社会とか、時代によって決まる、その社会を円滑化に進めるようなものよりは、それ以前の人としてというような倫理の領域を、ヌーソロジーは空間概念であれ、それより高次の話であれ、取り扱っていることが一つ、そして、他者論というようなものが多分に入っていることがもう一つ、そして、その社会の変動を扱うという道徳に近いものではなくて、その構造を扱うことになるので、その裏舞台になるような仕組みと言いますか、メカニズムを扱うような面がありますので、そのいろいろ等々考えますと、新しい倫理学領域っていうようなものだど、ヌーソロジーは別の言い方をすれば言える側面があるわけです。ですので、ヌーソロジーという学問が倫理学に等しいものであれば、当然それに対して、メタ倫理的なアプローチというものがあつてしかるべきなんではないかとというのが、私の今回の仮説となります。ですので、ヌーソロジーといういろいろ理論や概念がある中でですね。それに対して、個や社会との接点、例えば、ヌーソロジーでこのような考えがあるので、社会としてこういうようなことがあるとか、個でもこういった現象があり得るし、ほらそれはヌーソロジーで言ってる話と同じでしょっていうこともあれば、個や社会の現象を、ある程度整理した上で、その遠因や背景となっているものがヌーソロジーのこういう部分なんではないかというようなアプローチもできるわけです。まあお気付きの方も多くおられると思いますが、私自身がこれまでヌーソロジーをいろいろなところで論じたり、もしくは、YouTube チャンネルにて、私自身がヌーソロジーをお話させて頂く場合、すべてではありませんが、多くの場合、このメタ倫理学視点を用いさせて頂いております。ヌーソロジーがこのようになっているという説明だけで終わるのではなくて、ヌーソロジーの何か考え方や理念やいろいろな構造という思想体系が生み出しているものがどのように個や社会に反映されているのか、また個や社会がこのようになっているようなことは、ヌーソロジーで言えば、こういう部分と接点を持つのではないか、このようなことに、私自身いろいろ表現を気を付けている面がございます。これは、すなわち、先ほど申し上げました

【武蔵野学院大学ヌーソロジー研究所】研究動画シリーズ#008(高橋)(13:36)
「メタ倫理学視点とヌーソロジー」〈その1〉2つのメタ概念 (2022/07/05 uploaded)

通り、メタ倫理学のアプローチという形になってまいります。この後も研究所としていろいろな発言研究等をさせて頂こうと思っておりますが、私自身はまずこの確立が非常に重要になるのではないかと考えておりますので、今後もこのアプローチを用いたいと考える中で、今回の発表とさせて頂きました。短くなりますが、今回の発表は以上です。また次の発表でお会いできればと思います。どうもありがとうございました。(了)

**Research
Announcements**
#008

メタ倫理学視点とヌーソロジー
〈その1〉2つのメタ概念
〈その2〉メタ倫理学視点の有用性

 武蔵野学院大学ヌーソロジー研究所

announcer 高橋 暢雄

(出典:【武蔵野学院大学ヌーソロジー研究所】研究動画シリーズ#008(高橋)
(2022/07/05 uploaded)

<https://www.youtube.com/watch?v=SdcedrJJVDQ>